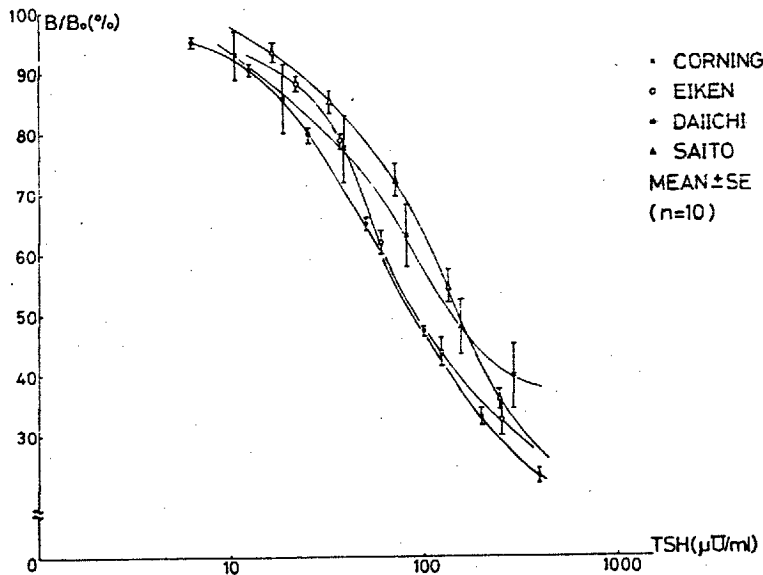


図 1. STANDARD CURVES FOR TSH ASSAY



神奈川県におけるクレチン症マス・スクリーニングの結果報告

神奈川県立こども医療センター 諏訪 城 三

目 的

神奈川県（横浜市、川崎市を含む）における新生児濾紙血液を用いてのマススクリーニングは、昭和54年10月1日より開始された。従来のガスリー法検査と同一検体を用いて全県的に進められている。そこで55年1月31日までの4カ月間に行われた検査成績について報告することにする。

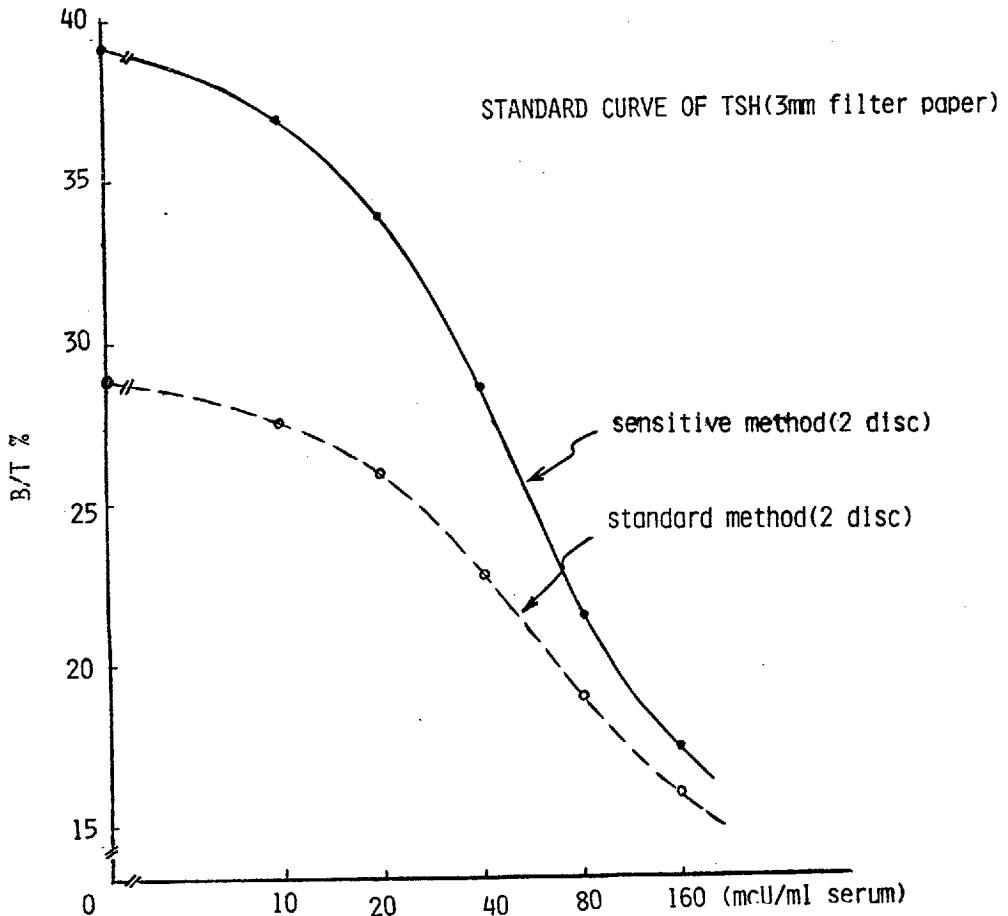
方 法

測定は T_4 と TSH の両ホルモンを radioimmuncassay で測定した。 T_4 、TSH は栄研 ICL のキットを用いた。TSH は図1に示す如く高感度の方法を考案して用いており、 $10 \mu U/ml$

serum 以上は確実に検出可能と考えられた。10 $\mu\text{U}/\text{ml}$ 以下でも血清の測定値とかなり良く一致を示していた。処理した検体は 27,299 であった。

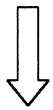
結 果

第1回測定結果は表1に示す通りである。このうちクレチン症を確定診断されているのは4例 (goitrous 1, hypoplastic 1, ectopic 1, 型診断未定 1) である。その頻度は1/6825 となった。いずれの例も TSH 値は 50 $\mu\text{U}/\text{ml}$ 以上を示しており、4例中1例(ectopic)の T_4 正常を除き他の3例は T_4 も低値を示していた。TSH 20~50 $\mu\text{U}/\text{ml}$ であったものは再採血を行い、再び高値を示したものは1例のみであったが、これも精検では正常であった。TSH $\geq 50 \mu\text{U}/\text{ml}$ 以上の6例中2例は精検で正常であった。 T_4 低値のものは再採血を行い、再び低値は精検を行ったが、半数近くが正常、30例近くが TBG 欠損(20例は確認)ないし減少によるものであった。





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

神奈川県(横浜市、川崎市を含む)における新生児濾紙血液を用いてのマススクリーニングは、昭和54年10月1日より開始された。従来のガスリー法検査と同一検体を用いて全県的に進められている。そこで55年1月31日までの4ヵ月間に行われた検査成績について報告することにする。